

宇宙通信アドバイザーボード（第3回）議事要旨

日時：令和6年4月3日（水）15：00～16：45

場所：中央合同庁舎2号館 9階 総務省 第3特別会議室 及び WEB 会議

出席者：梅比良座長、石田構成員、加保構成員（オンライン参加）、小塚構成員、
小紫構成員、藤本構成員

議題

- （1）宇宙戦略基金実施方針案について
- （2）宇宙通信分野の裾野拡大について

議事要旨

梅比良座長により、議題に沿って議事を進行。

議題（1）について、宇宙通信アドバイザーボード事務局（以下「事務局」という。）より説明が行われ、その後、各構成員よりそれぞれのテーマについて、技術開発実施内容、支援期間、今後の実施テーマの選定に対する質問が行われた他、各々の専門的な知見からの意見が述べられた。主な内容は以下のとおり。

（「衛星量子暗号通信技術の開発・実証」について）

- 非常に最先端の取組のため、関係者間（複数機関での受託等）で共有される情報の安全性が確保されるよう審査・評価してもらいたい。
- 社会展開を見据えた提案を受ける予定なのか。実用化に向けたユースケースを想定した検討を始めてもいいのではないか。

（「衛星コンステレーション構築に必要な通信技術（光ルータ）の実装支援」について）

- 誰が実施主体になるかによって出口戦略へのハードルが異なる段階と思われるため、その点を踏まえた上で自己負担の考え方については検討すべきではないか。

- 民間企業だけではなく、経済安全保障重要技術育成プログラム（通称「K Program」）等、他府省との連携も視野に入れることは出来ないのか。

（「月一通信間通信システム開発・実証（FS）」について）

- 月面産業の動向や議論については他国との連携を取るべきであり、その点に関し、基金を運営していく国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）が意識をしてバックサポートしていくと良いのではないか。

議題（２）について、スペース ICT 推進フォーラム及び国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）より説明が行われ、各構成員より標準化における活動実績、ICT 等を担う人材の育成状況、国内の宇宙コミュニティの広がり等に対する質問が行われた他、実証機会を増やすための取組（打上げの支援やライドシェアスキームの検討等）が必要ではないか等の意見が述べられた。

以上